

議会だより



白樺高原国際スキー場

あけましておめでとうございます

発行／長野県立科町議会 編集／議会だより編集委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL(0267)56-2311 有線2311 FAX(0267)56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL <http://www.town.tateshina.nagano.jp>

平成24年 第4回定例会

地域主権改革一括法による条例案が多数上程される 統合保育所駐車場整備工事費に1千3百万円 退職者医療費(国保)・居宅介護サービス給付費(介護保険)増加

平成24年第4回定例会は、12月4日から12日までの9日間の会期で開かれた。
平成24年度補正予算、条例、陳情など、全22件が審議され、条例制定1件を除き可決、承認及び採択しました。

条例制定

地域主権一括法により、従来は法令で定められていた自治体の事務処理基準等が自治体に委ねられたため制定された条例

◇指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例

◇指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例

◇公共下水道の構造の技術上の基準等に関する条例

◇水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例

条例の改正

◇一般職の職員の給与に関する条例

平成18年4月に実施された給料の引き下げに伴う現給保障を平成25年3月までとした。

◇財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例
普通財産及び物品の譲与又は減額譲渡のできる範囲を、公共団体のほか公共的団体もできるようにした。

◇町税条例
寄付金税額控除の対象とできる特定非営利活動法人の範囲を、町内に事業所を有する法人等の内町が指定したものとした。

◇暴力団排除条例
暴力団等の定義を明確化した。
◇町営住宅設置及び管理
地域主権一括法による、

公営住宅の整備基準及び入居者の資格を加えた。
◇索道事業条例
事業の一部を管理委託できるとした。

補正予算

一般会計他5会計の補正を行った。
(別表1) 一般会計では、統合保育所南側に新たに100台分の駐車場を確保し、その整備事業費1千3百万円、国保会計では、退職者医療費が2千1百万円、介護保険会計では、通所介護、訪問介護等の居宅支援サービス事業が増加し保険給付費4千4百94万円、索道事業会計では、圧雪車更新費1千2百万円をそれぞれ計上した。主な補正の内容は別表2。

別表1

会計別補正予算の内訳

(単位：万円)

会計名(補正号数)	補正前の額	補正額	計
一般会計(第4号)	41億7,007	556	41億7,563
国民健康保険特別会計(第2号)	8億5,647	2,100	8億7,747
介護保険特別会計(第2号)	7億8,253	4,513	8億2,766
ハートフルケアたてしな事業会計(第3号)	5億5,900	0	5億5,900
下水道事業特別会計(第3号)	4億5,595	△21	4億5,574
索道事業特別会計(第3号)	8,917	△1,660	7,257

※千円単位を四捨五入、索道は資本的支出の予算

議決事件

◇長野県町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及び規約の変更
東筑摩郡行政事務組合の解散による数の増加に伴う加入町村の議会の議決

承認

◇一般会計補正第3号
衆議院解散による選挙執行経費1千50万円の専決を承認。

否決議案

◇税外収入金の督促及び延滞金の徴収並びに滞納処分に関する条例制定
反対多数で否決。

発議

地域主権一括法により、自治法が改正され所要の改正を行った。
◇議会委員会条例改正
委員の選任等が条例に委任された。
◇議会会議規則改正
本会議における公聴会・参考人制度が導入された。

討論

◇反対◇

橋本 昭
立科町税外収入金及び延滞金並びに滞納処分に関する条例制定について、反対の立場で討論する。

地方自治法では、「自治体の長は、債権の督促に必要措置を講ずるべき」とあり、税外収入金その他自治体の歳入を、納期限までに納付しない者に対して、期限を指定して督促しなければならない」と定められている。本改正は、債権督促の義務を、「督促ができる」に改正し、町の裁量にゆだねるとしており、明らかに、自治法に反するものである。その他にも不備な点があり、当然認めることは出来ない。立科町法規審査委員会での、十分な検証、検討を行い、早急に再提案するよう要望する。

◇賛成◇

山浦 妙子
指定地域密着型サービス等の条例制定は、町の高齢者福祉ブランドを目

指す指針となるよう望む。「たてしな保育園」のハード、ソフト面の補正については、町の宝としての子供たちの安心、安全の園生活確保に向け賛成する。

国民生活の現状は、個人の「自立」努力や互いの「助け合い」だけでは生きていかなない社会である。国保、介護等の社会保障部分については私たちの人生の最終段階を穏やかに安心して過ごすことが出来るよう環境整備に向けて一層邁進されたい。「安心できる介護保険制度の実現を求める陳情について」は、今ほど沢山の人の共同の取組が求められているのではない。よって賛成する。

◇賛成◇

西藤 努
今定例会に提案された全議案に対し、賛成の立場で討論する。「立科町税外収入金の督促及び延滞金の徴収並びに滞納処分に関する条例」は社会経済状況と個々の事情を斟酌し、一律的対応でなく運用幅を持たせたもの。

適切な判断、検証、留意を要し、賛成。
「索道事業条例」の改正は柔軟的運営が可能となり、期待する。一般会計補正予算は新保育所関連、キャラクター着ぐるみの知名度PR、防災、安全対策等である。他は実績の増減であり、住民生活向上に資すると評価。各特別会計に被疑は無いが、国保会計補正額が伸びている。今後も増えることに留意し、予防事業の効果的推進を要望し、賛成する。

別表2 12月補正の主なもの

○一般会計	
歳入	
・固定資産税(滞納繰越分)	300万円
・地域公共交通確保維持改善事業費国補助金	486万円
・地域公共交通活性化協議会貸付金	△542万円
歳出	
・しいなちゃん着ぐるみ作成	84万円
・統合保育所駐車場整備工事費	1,300万円
・介護保険特別会計繰出金	580万円
・共同住宅「あんしん」浴室改修工事	262万円
・農地・水・環境保全向上対策事業負担金	△200万円
・土地改良事業(ため池、堰改修)補助金	357万円
・蓼科ふれあいセンター電気設備他修繕費	100万円
・県道歩道確保(塩沢地区)工事負担金	224万円
・体育センター非常放送設備工事費	192万円
・ふるさと交流館防水工事費	427万円
○国民健康保険特別会計	
・退職保険者等保険給付費	2,100万円
○介護保険特別会計	
・介護保険給付費	4,494万円
○索道事業特別会計	
資本的支出	
・圧雪車購入費	1,200万円
・リフト整備費	△2,860万円

陳情の審査結果

受理番号	受理年月日	提出者	住所	件名	付託委員会	結論
陳情3号	平成24年11月12日	長野県医療労働組合連合会 執行委員長 小林 吟子	長野市 高田	安心できる介護保険制度の実現を求める陳情書	社会文教 常任委員会	採択 賛成全員

※結論は、委員長報告に対してのもの。
※採択された請願は、国に対してそれぞれ意見書を提出。

総務経済常任委員会

所管 総務課・町づくり推進課・農林課・建設課
観光課・会計室・議会事務局

小土 橋小 土
森宮 藤本 池屋
信正 美春
明儀 努昭 江

本委員会は、12月10日に開催した。質疑の主な内容は次のとおり。

質疑Q&A

◎一般会計補正予算

2つ目の「しいなちやん」は動きがスムーズなものとの説明だが、活躍の場も多くなり、今回はスキームも可能なものとし幅広く町をPRしていきたい。

地域公共交通の補助金変更についてお聞きしたい。

暴力団排除条例改正 今回の改正は、暴力団等の定義を明確化したとの説明だが、立科町には排除を推進、連携

場産業は、小規模な農林水産業が中心。地理的条件も相まって過疎化、少子高齢化の進展が著しいとのこと。

◎行政視察報告

森本 信明

10月25日から26日、石川県珠洲市と金沢市の視察を行った。

珠洲市は能登半島の最先端の街。古くから商業集積地として発展し、地

する団体があるか。

今のところない。

◎索道事業条例改正

今回の改正は、スキーエリアの一部を管理委託することを可能とする改正であるが、今シーズンから予定のキッズウェイエリアの具体的な委託は。

キッズ及びエリアの一部の敷地を含め管理運営委託していく。動く歩道等の初期投資は町が行い、年間使用料を徴収する。

「空き家を活用した移住・定住施策」では、空き家活用事業が今年で9年目。広報等による空き家情報収集、空き家バンク・改修補助金等の制度の確立。宅地建物取引業協会とサポート協定等を結び、移住・定住希望者

本委員会は、12月7日に開催した。質疑の主な内容は次のとおり。

質疑Q&A

◎一般会計補正予算

上田市との定住自立圏による、障害児担当保育士連携の研修会にはどの程度参加させるのか。

正職、臨時職員を問わずできるだけでなく参加していく。

設置された「子育て相談員」の仕事は。

来年度統合となる、保育園の準備作業を兼ね業務をおこなっている。来年度からは、統合保育所内で相談業務を行う。

現在の児童手当の支給対象人員は。

515名。

ハートフルケアたてしな事業会計補正予算

法人財務会計システムについて内容は。現在町のシステムにより行っているが、4月の法人化に向けシステムの導入を行う。

雪吊をイメージした橋、風力発電施設、高台の鐘つき堂と海岸景色等。内灘海岸の周辺一帯が、「恋人の聖地」に選ばれている。海に接する自然環境を利した観光地であった。行政視察を踏まえて、今後の「まちづくり」に役立てたい。



珠洲市の風力発電

園園

山箕宮滝榎田
浦輪下沢本中
妙修典寿真三
子二幸弓江

社会文教常任委員会

所管 町民課・教育委員会
ハートフルケアたてしな

来年度統合となる、保育園の準備作業を兼ね業務をおこなっている。来年度からは、統合保育所内で相談業務を行う。

現在の児童手当の支給対象人員は。

515名。

ハートフルケアたてしな事業会計補正予算

法人財務会計システムについて内容は。現在町のシステムにより行っているが、4月の法人化に向けシステムの導入を行う。

来年度統合となる、保育園の準備作業を兼ね業務をおこなっている。来年度からは、統合保育所内で相談業務を行う。

現在の児童手当の支給対象人員は。

515名。

ハートフルケアたてしな事業会計補正予算

法人財務会計システムについて内容は。現在町のシステムにより行っているが、4月の法人化に向けシステムの導入を行う。

第7回臨時会

(12月25日)

◇議会政務活動費の交付に関する条例制定
自治法の一部改正により調査費に加え活動費が交付対象となり全部改正した。

◇財産の無償譲渡
ハートフルケアたてしなの社会福祉法人化に伴い、関係施設等の財産を無償譲渡することを決定。

◇ハートフルケアたてしな事業会計補正予算第4号
4月からの社会福祉法人化に伴い、4か月分の運営費2億円を交付することを決定。



ゆめみどりでの研修

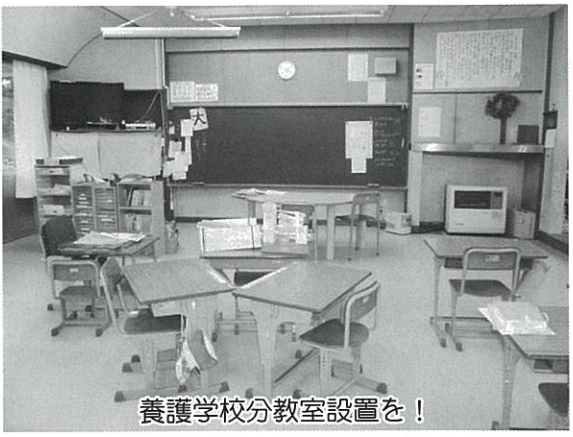
町スポーツとツーリズムの融合による観光振興が注目されている。その確立の為にシャワー設置や、樽ヶ沢温泉を利用した露天風呂等ハード面のバックアップを。

スポーツ合宿の方は宿泊されている施設を利用しては、現在、県道の工事で発生する残土で埋め立てが行われている。完了すると道路と平となるので、新たな利用を検討したい。

障がいのある子供が地元で学べるように養護学校分教室設置を要望してきたがその後の状況は。

県教育委員会に要請を行うと共に、県議会文教企業委員会にも陳情してきた。県教委からは、パイロット事業で分教室を設置し、その検証をしてからでないと検討できないとの回答で

あった。ほぼモデル校の設置も終了しその検証も進み、検討して戴ける段階となりつつあり、分教室設置に向け今後も努力して行く。



養護学校分教室設置を！

問

全国瞬時警報システムが設置されているが、緊急情報を自動放送で町民に伝達する、



役場に設置されている全国瞬時警報システム

防災告知放送施設整備がされていない。町民の安全・安心をより確実に守る為にも屋内外にいて情報伝達可能な整備

を。

答

現在のJAで運営している有線は、今後の放送事業にJAの中では、課題がありと聞いている。そうすると全町の大半の告知放送に問題が出てくる。夢科区に整備したケーブルテレビの音声告知放送システムを里地区に整備し、日常生活に於いて住民へのきめ細かな情報伝達が必要。有線放送に代わる設備を充実させ、その後について防災無線告知放送設備を計画をしたいと考える。

一、防災告知放送施設整備事業を 二、観光振興策について 三、養護学校分教室設置方向は



土屋春江

10月11日から12日山梨県早川町の教育委員会と甲斐市の特別養護老人ホームを視察した。

早川町では、「子育て支援について」町の教育長から説明を受けた。「義務教育費無償」・「小・中の給食費、教材費、校外学習費が無償」この対策は、子供達が町

内にとどまるための施策。人口が少なくても各世代が居ると過疎ではない、コミュニティには子供が大切、自立の条件であると説明された。

小規模校における新たな教育モデルを作って行くとして行っている。

甲斐市の「社会福祉法人、山梨樹の会 特別養護老人ホーム、ゆめみどり」では、ユニット式介護施設や、両側から介助

でき入所者に人気のユニット型個室ヒノキで風呂は一人用。ユニット型施設は、風邪などの流行には各室で仕切れ広がりを抑えることが出来るが、金額的には高額で、多床室の検討も必要ではとの説明があった。内部の研修を月1回は行って職員資質の向上や情報の共有化など組織力も高めた経営がなされていた。特に認知症の皆さんはオレン

あつた。ほぼモデル校の設置も終了しその検証も進み、検討して戴ける段階となりつつあり、分教室設置に向け今後も努力して行く。

あつた。ほぼモデル校の設置も終了しその検証も進み、検討して戴ける段階となりつつあり、分教室設置に向け今後も努力して行く。



田中三江

一、立科教育の具体的推進は 二、米の生産調整の促進は

問 立科の子供たちをどう育てて行くのか、小学校・中学校の9年間を見通した「教育目標と重点目標」その目標に迫る「基本的な考え方や取組内容」は。

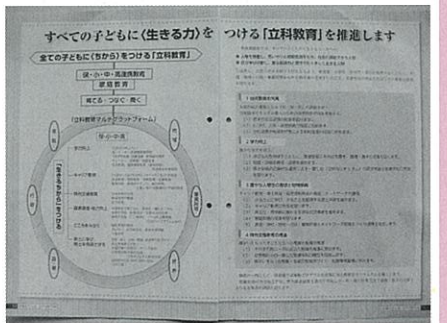
答 「心身ともに健康で社会の形成者として必要な人格の育成」を目指して行うもので、町では従来から、人権を尊重し、思いやりと規範意識を持ち社会に貢献できる人間、自ら学び行動し、豊かな想像力と個性でたくましく生きる人間の育成を「教育目標」に掲げ、夫々の施策を行っている。保育園・小学校・中学校・高校の連携と、家庭・地域・事業所・行政など、あらゆる関係者の支援協力を頂き次代を担う人材となるよう児童・生徒の育成を目指す。

問 自然豊かな立科でなければできない教育、特徴のある学校作りをどのように行っていくのか。

答 立科教育は全ての子ども達に「生きる力」をつけることを目的に、児童生徒や教師の交流、学校間の授業交流は小・中・高・大学や中・高・大学との関係や、学力向上、豊かで好ましい事から順次進める。

問 自然豊かな立科でなければできない教育、特徴のある学校作りをどのように行っていくのか。

答 自然豊かな立科でなければできない教育、特徴のある学校作りをどのように行っていくのか。



広報たてしな11月号

問 愛する力をつける内容を盛り込む。人格形成の基盤となる読書、学力向上の中の読書推進をどう進めるか、図書館としての環境整備は。

答 現在は図書館に移行は難しい、いくつかは図書館という形で運営できる町にしたい。上田定住自立圏の中で上田市民と同じ方式で立科町民も利用できる協定を結んだ。当面は上田の図書館を利用してほしい。

問 中学校図書館司書の専任及び図書

小河川への注意を指示している。

問 気象の変化と降雨量・流出量の推移は。

答 過去15年間の平均降水量は1086ミリ。これを上回った年は8年、下回った年は7年。当町は雨が少なく地域である。流出量は、開発が進み、降雨時の一時的な流出量は場所により増えている。

問 排水機能施設の現状とその排水能力は。



改修を検討する1級河川「赤沢川」

建設課長 水系は、一級河川の芦田川、番屋川、赤沢川。その支流は4準用河川と20の普通河川により排水。

問 国内外での「気象の変化」「想定外の自然現象」があるが。昨年は、全国規模では大規模災害があった。立科町では近年は、大

問 排水量の変化に対応できる流域整備計画等は。

答 赤沢川は断面構成等根本的に改良が必要、県河川課で改良を伴う改修を検討していく。小学校周辺の排水は福祉施設の計画等があり、周辺の道路改良と併せて排水路の整備に向けて調査・計画をしている。

問 土地利用計画は。

問 平成4年に策定。生活・生産緑地・開発調整・自然保護ゾーンに分けた計画である。今後は財政状況や社会情勢を見極めつつ、諸施策・計画を進めたい。

答 指導員・リサイクル推進員による環境衛生会議を開催。町内一斉清掃・白樺高原の環境美化活動・道路の草刈や清掃（アダプト制度）・水質保

問 全等を実施し環境保全に努めている。来年度に予算反映する主な開発・整備計画は。

答 財政再建を大きな目標に掲げ、緊急性・重要性を熟慮し、進める。主な計画は。

一、ハートフルケアたてしな徳花苑等の移転増床。

二、宇山バイパスの整備促進（県事業）

三、陣内森林公園の整備。



榎本真弓

一、ドクターヘリ離着陸整備・周知のために看板設置を 二、子育て環境を充実するために「子ども子育て会議」を

問 ドクターヘリは医師や看護師を乗せ、機内で処置・治療を行いながら搬送する空飛ぶ救急救命室である。長野県では平成17年佐久総合病院に導入された。平成23年10月松本に導入され県内2機体制となる。

答 立科町内のドクターヘリ離着陸場はどこか。着陸回数。

問 ランデブーポイント（離着陸場）の決定の経過は。町内全域からみて足りているか。

答 救急現場近くの空き地や道路に救急隊の誘導で着陸することもある。町民には新しい情報で周知をする。着陸回数は平成17年6件、18年25件、19年23年60件、24年6件である。



問 「社会保険と税の一体改革」の重要な柱の一つとして、「子ども・子育て関連法案が成立した。幼児教育・保育・地域の子育て支援の質と量の充実など、子育て環境の充実を図ること

総務課長 白樺高原地区は、女神湖スポーツ広場・白樺湖三本松マレットゴルフ場・白樺2in1スキー場駐車場・蓼科山7合目登山道駐車場。里地区は、権現山運動公園・交流促進センター駐車場・小宮山土木所有広場・立科ゴルフ倶楽部の合計8箇所。緊急の場合は、

問 周囲が開けていることなど条件がある。検討の上選択された。ドクターヘリ要請から12〜14分で現場へ到着、立科町の広さからみて現在の場所数で足りている。

問 要する力をつける内容を盛り込む。人格形成の基盤となる読書、学力向上の中の読書推進をどう進めるか、図書館としての環境整備は。

問 必要に応じて掲載していく。生きる力を付けて行くための教育はすべてやって行く。多感な時期、全体的に見た教育を施していく。多くの人の中で人格を作っていく。



山浦 妙子

社会保障としての 町の国保を問う

問 国保運営の見直しはどのようにする。

町民課長 保険税調定額は税率が一定しているにも関わらず平成21年度から年々減少している。これを反映し、一人当たりの医療費は増加、国保税の収入は減少。医療費の一般的負担割合の財源は国庫、県負担で50%、保険税が50%で賄われる。23年度は約30%となっている。国保税の見直しについては今年度の収支を見込み収入支出の将来的推移を勘案して不測の状態とならない為の検討である。

問 誰もが支払える国保税の取組みは。

町民課長 低所得者に対する軽減制度がある。軽減なし672世帯。2割軽減188世帯。5割軽減80世帯。7割軽減330世帯。全体の47%が対象となっている。この他にも「非自発的失業者」「リスト対象者」「高齢者夫婦の世帯に対する措置もある。

問 資格証明書、短期保険証交付の検証は。

町民課長 毎年9月の保険証切替え時、12月及び3月と現行制度を最大限活用した納付相談をきめ細かく行っている。

問 今後の低所得者対策は。

町民課長 標準負担額等入院時食事代の減額、入院 外来診療にかかる高額療養費は限度額適用認定証等を提示することで医療機関への支払いが自己限度額までとなり、窓口の負担軽減となる。又、一部負担金の減免制度や高額療養費のつなぎ資金も行っている。

問 国保広域化をどうみるか。

町民課長 平成27年4月から保険財政共同安定化事業が全医療費に拡大される事が決まった事により、県単位化が進む予定。「社会保障と税の一体改革」の今後の動きに注目し、必要に応じて県の検討委員会で意見交換し進めていく。

問 町民の生命と健康を守る取組みは。

町民課長 国保制度だけでなく、生活保護等の福祉事業や、健康増進事業との連携が必要である。今後もこの部分での事業に力を入れていく。



橋本 昭

来訪者の立場に立つての 観光地「白樺高原」の 課題と対策は

問 町長は、町有地の有効活用による、安定した自主財源の確保を図るべく、事業用、別荘用の土地の貸付、スキー場経営、女神湖の観光活用等、観

光事業の経営者の立場にある。6年余の間で、来訪者の立場にたつて認識した、白樺高原の問題点は何か、浮かび上がった課題に対してどのような対策

を打ち、その課題は解消できたのか、できない課題は今後どのように対応するのか。観光地経営の観点から伺う。
要 就任以来、白樺高原の観光については、主要な施策、重点課題に位置付け、積極的に行ってきた。各観光施設の運営を展開し、施設の目的に沿って維持、管理を進めている。質問は、漠然としており、本音が掴みきれ無いので、行政運営の方針や姿勢を述べる。観光地経営・スキー場経営も、町民益

組むべきと心得ている。
観光課長 現在の課題についての事業展開は、長期振興計画、実施計画により予算化し、実施している。①車以外の交通手段の充実が今後必要。②県道40号線の改良推進。③別荘、営業施設も建て替える必要な施設が出てきている。④夢科ふれあいセンターの改良、女神湖センター施設の改修、公衆トイレの洋式化、朝日・夕日の丘公園、御柱公園、恋人の聖地などの観光スポッ

トの増設等による魅力アップ⑤有効な宣伝方法を模索し、観光協会と一体となつて振興する。中山道ウォーク、農村体験学習ほか、農林業、健康長寿など新たな観光需要を、幅広い事業者と探り、受け入れを推進し、継続していく。
問 スキー場経営の観点からはどうか。
観光課長 15年度以降、純損失が続ぎ、経費削減等の努力をしたが、スキー人

口の減少が主要因であり、需要に見合ったスキー場の規模で、10%の経費削減の経営方針を、本年4月に関係者に提案。関係者からは、死活問題、観光地全体の衰退をもたらすとの意見があり、保留とし、関係者・観光協会・観光課による「索道事業改善計画」により、誘客体制を整え、誘客活動を展開し、経営の検証を行い誤りのない方向を目指すこととした。平成29年度に、年間21万人の利用を目指す。

結 弱肉強食ではなく、強いものが弱い者を支える。富める者が貧しき者を支える憲法25条の生存権を政治が保障すると言う道で、今回の見直しが住民の生活実態に添った改善に役立つものとなるよう期待する。



健康講演会

観光振興が目的であり、お客様が訪れていただくことを第一とした目線での施策を行っている。課題分析は、アンケート・意識調査、専門コンサルタント・会計士の調査を基に、講演会、多くの会議の中で、問題点を見出し、課題の解消施策を展開してきた。観光協会、事業者への問題点も見出され、課題解消に努力されてきており、この積み重ねの継続が不可欠。官民が協力し、全力で対応することを再確認し、取り

結 問題点を認識、そこから課題を抽出し、対策を打たなければならぬ。質問の本音が解らないと言ったことが、一つとして長期振興計画の魅力ある観光振興で、事業者の高齢化、後継者問題、未営業施設の増加を課題として、行政側が認識している観光地振興の本質的な課題ではないのかと問いかけた。課題認識のずれは政策・施策策定のずれにつながる。廃屋同然の未営業施設がある風景が、来訪者にとってどのように写るかを考えるべきではないか。



議会日誌

定期総会

- 10月
- 9日・白樺湖下水道組合議会定例会
 - 10日・岐阜県養老町議会視察来庁
 - 11日・社会文教委員会行政視察(12日)
 - 15日・長和町議会との交流会
 - 16日・小諸市・東御市・立科町議会議員研修会
 - 17日・西峰山の神祭典
 - 18日・北佐久郡議会議長連絡協議会
 - 19日・北佐久郡議員スポーツ大会
 - 20日・丸子修学館創立100周年記念式典
 - 22日・佐久広域連合第3回定例会
 - 24日・長野県町村議会議長会第15回



清瀬市議会と「災害時防災協定」をテーマに意見交換会

- 11月
- 1日・愛川町議会(会派あいかわくらブ)視察来町
 - 5日・清瀬市議会視察来庁

進期成同盟会総会

- 13日・全国町村議会議長大会(14日)
- 22日・全員協議会
- 26日・議会運営委員会
- 12月
- 1日・人権を考える町民大会
 - 4日・第4回立科町議会定例会(12日)
 - 全員協議会
 - 議会だより編集委員会
 - 10日・国道142・254号整備促進期成同盟会県要望
 - 13日・冬山開き
 - 25日・議会運営委員会
 - 第7回立科町議会臨時会
 - 佐久広域連合第4回定例会
 - 27日・議会だより編集委員会

あなたも—

議会を傍聴してみませんか

— 次回の定例会は

3月4日からの

予定です。—



町かどの声

帰郷して思うこと

村田 文彦さん
(野方)

私は定年退職を機に、昨年生まれ故郷である立科町に帰ってきました。田んぼと畑の農作業を少しだけやっています。

我が家では、田んぼは一部のみ自作で、他は個人の方に借りてもらっています。これに対して畑は、一部のみ自家用野菜を栽培しているだけで、ほとんどが草退治だけしているのが現状です。畑については、周りをみても、草退治だけされているものが多いようです。このような状況をみてみると、土地が大変もったいな

いと思っています。遊休農地の有効活用という点は考えざるをえない問題だと思っています。

また、久しぶりに農作業をやってみて、機械化が進んだことに改めて感心するとともに、農業用機械の種類の多さや進歩にも驚きました。その一方、それらの機械の費用対効果という面では、考えさせられる点がありました。

立科町としても難しい課題が多々あるかとは思いますがそれらをみんなで協力しあって克服し、今後もずっと、わが町が自然と共存する豊かな町であってほしいと強く願っています。



人生は、これから

小淵 弘実さん
(山部)

この4月より、山部分館分館長を仰せ付かる事となり、今まで役員始め地域の皆様方のご指導、ご協力により、どうか大事なく務めさせて頂いております。

山部分館での、三大イベントは、「カラオケ大会」、「班対抗球技大会」、「ふれ愛ささえ愛収穫祭」です。どの行事も地域の皆さんが楽しみにして、子供からお年寄りまで大勢参加して下さいます。とりわけ、11月の「ふれ愛ささえ愛収穫祭」では、山部シニアクラブの皆さんのご指導により、しめ縄づくりや、餅つきで盛り上がり、又、女性部のご協力によりおいしい「豚汁」を作って頂き、楽しく昼食会を開催することが出来ました。

こうした活動で感じる事

は、少子高齢化が随分進んでいることです。立科町でも対応策や、活性化に取り組んでいますが、分館としてもこれから、高齢者の方に目を向け、要望を聞きながら、ふれ愛活動を推進し、お年寄りの方が、「人生これからだ!!」と、元気がでてくるような地域づくりになるよう、地域の協働事業を更に推進し、地域では対応できない面等は、町からご支援を頂ければと思います。



今後も、活力ある地域作りにご協力をお願い致します。

編集後記

穏やかな新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年末に、国は新たな政権が誕生しました。国内外の喫緊の課題が山積する中で、一歩でも二歩でも前進する政治を大いに期待します。

こんな記事を見つけました。生活習慣として良いこと①テクテク（よく歩く）②カミカミ（食事はよく噛む）③ニコニコ（笑いは良い薬）④ドキドキ（感動は脳に良い刺激）健康寿命を長くする手近な成人病予防と、実践してみるのはいかがでしょうか。

立科町議会一同全力で活動して参ります。本年もよろしくお願い申し上げます。

榎本 真弓

○今後とも「議会だより」をご愛読下さい。

議会だより編集委員会

森本 信明 榎本 真弓
小池美佐江 山浦 妙子
田中 三江 小宮山正儀